



浜松観光ボランティアガイドの会

“はままつ案内人” 新人養成講座はじまる

令和8年1月12日(月)から2月16日(月)まで全6回の予定で、28期新人養成講座が可美総合センター研修室にて始まりました。男性5名、女性11名の計16名の皆さんの受講の様子を前半の3回を本号で紹介します。

【第1回 1月12日(月)】

新人参加者 16名(男性5名 女性11名)



大見会長の挨拶

9:30始めに大見会長から、「当会は30年近い歴史を持ち、四カ所の活動拠点を有し、120名を超える会員を擁する県下最大の観光ボランティアガイドの会です。この講座では、ガイド活動の基礎知識を学んでください」と、あいさつがありました。続いて、日程説明(鈴木研修部長)、会の概要説明(春日事務局長)、ガイドの心得(大見会長)と続き、休憩をはさみアイスブレイク(自己紹介)、ガイド体験談(渥美恵子さん、古山)で11:50に終了しました。

【第2回 1月19日(月)】

新人参加者 14名(男性5名 女性9名)

今回は、当会の研修部員2名がそれぞれ約50分の講義を行いました。最初の「お城とは」では、吉山万智子さんが城の成立年代に始まり、縄張りから普請、城を構成する曲輪、石垣、堀と



渡邊喜信さんの講義風景

櫓、門、天守他と多岐にわたり説明しました。

続いて「浜松城の石垣」では、渡邊喜信さんが他の城と比較しながら石材、積み方などの浜松城の魅力を説明しました。中でも、チャートについては放散虫の拡大写真やモース硬度7などと詳しく

いもので、興味深く聴かせていただきました。今回の講義では、城についての基礎知識を主に学んだことで、次回1月26日の現地研修の理解に役立つことになりました。

【第3回 1月26日(月)】

新人参加者 15名(男性5名 女性10名)



天守台石垣での説明

城のイメージという、天守が一番に浮かぶ人が多いかもしれませんが、でも、浜松城天守の周辺には訪ねてほしい所が幾つか

あります。今回の現地研修では、そんな見どころを歩いて巡り、研修部員の説明を受けました。その中で主なところを紹介します。

天守台南側の石垣では、野面積み、算木積み、布積み。天守曲輪の西側では、屏風折り、鉢巻石垣に埋門(うずみもん)。西端城曲輪、作左曲輪と歩けば縄張りに興味が湧いてきます。

また、大河ドラマの影響で訪れる人が増えているパワースポットの元城町東照宮も訪れました。

今回は小グループで歩いて巡るという形で、新人の方が研修部員に質問などし



浜松城をバックに集合写真

やすいようでした。新人の方から感想を聞きますと「寒かったが歩いて気持ち良かった」「知らないことをたくさん教えてもらった」「路地裏を歩いて、浜松城の三の丸がわかった」など…。

寒波の襲来で戸外の研修は心配でしたが、会員による熱のこもった説明もあり無事終了しました。

広報部 古山貴朗(西ブロック)

第2回 西ブロック文化祭開催

2025年11月25日(火)定例会終了後、2024年に続き第2回目となる西ブロック文化祭が開催されました。絵画、昆虫写真、御城印、宝船、野鳥動画、薬膳、綿花、石碑、ベリーダンス、押しチームユニフォームなど様々な趣味や収集品が紹介されました。それらの中から犀ヶ崖資料館に関連する2点をピックアップして報告します。

絵画(伊賀春雄さん)

Q.いつ頃から絵を画くようになったのですか?

A.社会人になって講座を受講してから。

Q.この絵の分類と特徴は何ですか?

A.パステルです。道具が少なく修正が簡単で初心者でも始めやすいです。

Q.題材はどのような形で選ぶのでしょうか?

そして1枚仕上げるのに何時間かかりますか?

A.風景などが多い。作業時間は完成へのこだわりしだいです(A4で12時間ぐらい)。

Q.展覧会への出品の実績と今後の予定は?

A.市展(6回選)。美術協会展などの予定。

Q.今まで何枚書き上げたのでしょうか?

A.10号サイズを50枚以上です。



資料館に展示中 鶴翼と魚鱗の陣

Q.犀ヶ崖資料館への展示とPRは?

A.犀ヶ崖に関するテーマで描いているので、テーマ募集中です。

石碑(飯尾 隆さん)

Q.この石片は何ですか?

A.昭和初期に設置された石碑の破片。現資料館の東に土台のみ残っています。艦砲射撃で破壊されたとの伝承があります。戦後「忠真の碑」の後に残骸として残っていたらしいです。散逸してしまいましたが、残ったその一部と思われます。



犀ヶ崖公園にあった石片

Q.いつ発見されましたか?

A.1年半前。ただの石として手水鉢へオブジェとして活用していました。最近単なる石ではなく石碑の欠片であることを認識しました。

Q.何が刻してあるのですか? 解読されたのでしょうか?

A.文面と思われる資料があり、資料確認を資料館部に依頼しています。

Q.今後の予定とPRは?

A.資料館に展示してもらうように依頼して、資料館部で検討中です。

聞き手 広報部 長田勝久(西ブロック)

会員の交流広場

世界最高峰を間近に・四駆の旅

世界最高峰エベレストはチベット語ではチョモランマと呼ばれている。数年前の3月にチベット側のベースキャンプ(BC)を訪れた時の模様。中国青海省の省都西寧から青蔵鉄路の特快夜行で、



青蔵鉄路高所用機関車

途中世界の鉄道最高地点唐古拉(タングラ)峠を経て、チベットの首都ラ薩(ラサ)まで2,000 kmを26時間かけて移動した。ラ薩は富士山頂ほどの標高があるので高度順応のため、2泊してポタラ宮等を観光見物した。

日本を出発して7日目の朝、四駆に分乗してラ薩を出発し中ネパ国際公路を西進、途中あちこち観光しながら9日目の夕方チョモランマ山麓のシュカールへ到着。翌日未明BCへ向け出発。第1、第2の検問所でパスポートや「入境許可証」の検査を受けて出発。登山道はひどい悪路で、富士山の砂走のような登り下りの繰り返しを経て11時に5,150mパンラ峠へ到着した。ここからは眼前に左からマカルー、ローツェ、チョモランマ・チ

ョーオーユー、シシヤパンマの8,000m級ヒマラヤ五峰の大パノラマが望めた。一旦下り再度急坂を登り、世界最高所の寺院ロンボク僧院を経て、14時頃眼前にチョモランマの大岩壁がそびえるBCへ到着した。快晴だが



チョモランマBC(5,300m)

もの凄く寒く、手もかじかんで吐く息も凍りそうだった。気圧が半分以下なので少し動くだけで息が切れ、菓子の袋が風船のように膨れ、身体も同様で腕時計のバンドが腕に食い込んできた。

復路はオールドティンリで公路に戻りネパールに向けて西進し、あと30 kmで国境という地点の谷川沿いで雪崩のため立往生を余儀なくされてしまった。夕闇迫る3時間後やっと応急復旧した雪の壁をかき分けて、国境の町ダムーへたどり着いた。チベットへ行くにはビザの他に現地の旅行社を通じ「入境許可証」を取得する必要があり、ガイドの同行も義務付けられている。

中ブロック 金原裕一

会員の交流広場

私の推し活のお薦め

皆さんは、何か推し活をされていますか？

一つ目の推しは、70年代のフォークソングです。歌詞が覚えやすくテンポもついていける、さだまさし、吉田拓郎、井上陽水、小椋佳、中島みゆきなどが好きです。最近では、そのような楽曲をカバーするアマチュアバンドで実力はプロ以上のグループをユーチューブで聴いたり、サーラ音楽ホールなどへ出かけて行き、一番前の席で聴いたりしています。きっかけは、2022年8月に開催された浜名湖ファイナルフォークジャンボリーを朝から夕方まで見ていて感動したからです。推しのグループは、スイスのアルプスの山の名前で、バンドとしてより高みを目指そうと命名された愛知の「ユングフラウ」や、浜松を中心にライブ活動している夫婦デュオ「ライト♪ハーモニー」。浜北を拠点に主に吉田拓郎さんのカバー曲で活動する「名倉バンド」などです。

二つ目の推しは、自衛隊のエアフェスタです。毎年自転車で行き、基地内を一人気ままに歩きます。もう半世紀以上前のことですが、明治大学在学中に読売学生航空連盟（2010年にNPO



学生時代の操縦練習

法人学生航空連盟となる）に所属し自家用操縦士（上級滑空機）の資格を取得しました。そして25歳の頃、航空自衛隊浜松基地の航空祭で、約5万人が見つめる上空をグライダーで飛んだことが、私の自慢となっています。

今でも教官と二人で飛んでいて、いつかは霧ヶ峰や旭川・ハワイでも飛んでみたいと思っています。

現在75歳になりましたが、家康75歳より元気です。元気の源は、浜松八幡宮でのラジオ体操だと思っています。毎日欠かさず行き、ラジオのセット係をやっています。

さて、私事ですが弟の小林たつよしが、小学館から小和田哲男先生監修による徳川家康の学習マンガを出版していますので、ご案内させていただきます。

最後に、今年3月18日から5月24日までアメリカにいる娘を訪ねて旅行をさせていただきますので、紙面をお借りしてその間ボランティア活動をお休みさせていただきますことよろしくお祈りします。

東ブロック 小林光武



筆者25歳の頃 航空祭で飛行練習

会員の交流広場

「新居関所の思い出」

浜松に移り住んで45年になりますが、私の出身地は日本で唯一現存する関所がある湖西市新居町です。正式には「今切(いまぎれ)関所」と言い、慶長5年(1600)徳川家康によって設置されました。当初は幕府直轄でしたが、元禄15年(1702)から三河国吉田藩(豊橋)の管理になりました。

手筒花火は豊橋が発祥と言われていますが、新居の手筒花火もそこから伝わったのかもしれませんが。江戸時代は軍事的機能に代わり「※入鉄砲と出女」を取り締まる役割が強まりました。東海道を位置する新居関所は江戸への最初の関門、江戸から出るときは最後の関門ということもあり、他の関所より改めが厳しいことで知られていました。

今の関所は自然災害(台風・地震・津波)により、2度の移転を強いられ、現在地は3度目の場所です。現在に残る中心的建物(面番所)は安政5年(1858)までに再建されたものです。現在地に移ってから大規模な修復や建て替えが何度か行われました。明治2年(1869)新政府によって関所制度は廃止されましたが、明治から昭和を通し、小学校・町役場として使われ、取り壊しを免れました。

※江戸へ入る鉄砲と江戸から出る女性(大名妻子)を厳しく取り締まった徳川幕府の政策

昭和30年(1955)に国の特別史跡に指定、同46年解体修理され、全国で唯一江戸時代の姿で現存する関所建物となっています。現在は建物や遺構が復元整理され、旅道具や江戸庶民の生活資料の展示と関所の生い立ち、役割などを紹介する「新居関所資料館」となっています。

今は入場料もかかりますが、私の子供時代は自由に出入りでき、ほこりをかぶった畳や壁に甲冑や模造刀、火縄銃(本物?) 槍、木の沓(くつ)などが無造作に置かれていて、持ち出してチャンバラで遊んでいました。叱られた記憶はありません。古き良き時代の懐かしく楽しい思い出です。新居町の誇りとして、後世にいつまでも保存されることを願っています。



新居関所前に立つ筆者

北ブロック 岩松一好

西ブロックミニ研修 高根城址、水窪民俗資料館などを巡る

2025年11月16日(日)、バス移動による西ブロックのミニ研修が行われ、西ブロック22名が参加しました。コースは、アクトシティ南側(午前8時出発)→浜松バス→花桃の里(休憩)→水窪総合体育館(みさくぼ観光ボランティアガイドの会のお二人と合流)→高根城址→昼食(つぶ食石本)→水窪民俗資料館→花桃の里(休憩)→清瀧寺→本田宗一郎ものづくり伝承館→二俣城址→浜松バス→アクトシティ南側(午後5時到着)、と盛りだくさんでした。高根城址には「みさくぼ観光ボランティアガイドの会」の入口さんと三石さんが案内してくれました。

バスができるだけ城址に近づけるよう木の伐採



高根城址

などの整備を事前にいただいたとのことで頭が下がる思いでした。高根城址の見所はなんといい

っても井楼櫓(せいろうやぐら)でしょう。「みさくぼ観光ボランティアガイドの会」に事前に申し込みをして櫓に登ることができました。

丁寧な説明に「みさくぼ」に対するガイドの熱い思いを感じるとともに、櫓からの景色で殿様気分を味わうことができました。

次に水窪ならではの自然食である「つぶ食」の昼食を堪能した後、水窪民俗資料館を訪ねました。遠州と信州を結ぶ「秋葉街道」の宿場町として栄えた水窪町の文化と歴史、それらにまつわる貴重な財産が展示されており、一見の価値がある資料館でした。

その後、水窪から天竜川沿いに下り、二俣で清瀧寺、本田宗一郎ものづくり伝承館、二俣城址を散策しました。清瀧寺は、信康山清瀧寺と号し、徳川家康の嫡男信康の廟があります。住職の許可を事前にいただき信康廟内を見ることができました。



清瀧寺 信康廟

企画・計画担当者の万端の事前準備とともに天候にも恵まれ、予定時刻通りに出発・到着することができ、大変有意義な研修となりました。

広報部 長田勝久(西ブロック)

1月のガイド活動 《明るく楽しくやらまいか》

「浜松城」・「犀ヶ崖資料館」・「浜松まつり会館」にて、来場者にガイドを行っています。また、この3カ所の他に「浜松市観光インフォメーションセンター(浜松駅構内)」や「家康の散歩道」同行ガイド、各種イベントとタイアップしたガイドなど幅広く活動しています。

《浜松城》

19日 月	飯岡工務店	20名
20日 火	蒲郡ボランティアガイドの会	12名
22日 木	浜松市立篠原小学校	5名
25日 日	東海道53次ツアー第14回	16名

《浜松まつり会館》

13日 火	静岡大学	41名
-------	------	-----

《ふるさと講座》

19日 月	浜松市立県居小学校	45名
-------	-----------	-----

《犀ヶ崖資料館》

実績なし

《同行ガイド》

実績なし

はままつ案内人会報 283号

編集・発行 浜松観光ボランティアガイドの会

〒430-0946 浜松市中央区元城町100-2 (浜松城内)

TEL 053-456-1303

メールアドレス mail@hama-svg.jp

ホームページ https://www.hama-svg.jp/

はままつ案内人

検索



家康公ゆかりの地